2025年度1Q決算説明会 主な質疑応答

（2025年8月7日開催）

＜クロロプレンゴム事業の抜本的対策＞

Q1：5月13日に発表したDPE※における期限を定めない暫定停止について、進捗状況は？
※Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社

A1：DPEの製造設備については、安全な状態で完全に休止させるため、製造設備に残る原材料や中間品などの危険物の抜き出し、および処分作業を実施している。

＜電子・先端プロダクツ＞

Q2：説明会資料（P10）に記載されている各製品の販売数量の状況を見ると、横矢印で示している製品が多いが、AI向けやxEV向けなど用途別の販売動向は？また2Qの方向感は？

A2：xEV 向けは欧州や米国等での需要減少が顕著であり、アセチレンブラック、窒化珪素（粉）、球状アルミナなど製品に影響が出ている一方、球状シリカや球状アルミナではAI向けの需要が増加、アセチレンブラックでは高圧ケーブル向けの需要が堅調に推移している。そのため、球状アルミナやアセチレンブラックの販売数量は前年比横ばいとなり、球状シリカはAI向けの好調な販売の効果が大きく、数量が増加した。2QはAI向け需要が拡大し、AI以外向け需要も緩やかな回復に向かっていることから1Q比増益を目指せる状況。

Q3：説明会資料（P10）に記載のコスト差等が▲10億円と大きいが内容は？

A3：AIやEV関連などの市場拡大を想定し、生産体制の準備を進めてきたことから償却費が3億円ほど増加している。加えてAI向けなどの高付加価値品の増加により変動費も上がっている。ただし、高付加価値品はコスト増加に見合う販売売価を設定できている。

＜ライフイノベーション＞

Q4：臨床試薬と抗原迅速診断キットの販売減少により、今年度 1Q の営業利益（2 億円）が前年度 1Q（17億円）比で15億円悪化したとのことだが、2Q以降どのように改善させるのか？

A4：臨床試薬では、販売シェアを失っているわけではなく、一部海外での市場動向により販売が減少しており、回復まで少し時間がかかる見通し。そのような状況下、顧客ニーズを捉えた新規検査項目の獲得などを進めている。抗原迅速診断キットは、2Qには流通在庫向けの需要も含め、一定程度の需要が見込まれ、1Q比では販売増加の見通しであるが、現時点では期初の想定よりも感染症が流行しておらず、期初予想を下回る可能性がある。昨年度までは旺盛な需要に供給が追いかず限定出荷をおこなっていたが、新工場の稼働により生産能力が増えたことで供給が出来ていなかった顧客への販売を再開させており、販売シェア拡大が進んできている。また、感染症が流行した際には、迅速に供給できるよう備えている。

＜エラストマー・インフラソリューション＞

Q5：クロロプレンゴムの抜本的対策の効果が+9 億円あったとのことだが、今年度 1Q の営業利益（▲14 億円）が前年度 1Q（▲2 億円）比で 12 億円悪化している要因は？

A5：2023 年度末にクロロプレンゴムの在庫評価減として▲21 億円を計上。洗替法による戻入として 2024 年度 1Q に+21 億円の計上があり、利益の押し上げ要因となっていた。その為、2025 年度 1Q はクロロプレンゴムの抜本的対策の効果が+9 億円あったものの、前年比で 12 億円悪化したように見えている。

Q6：DPE における暫定停止に伴うクロロプレンゴムの青海工場品への切り替え状況は？

A6：切り替えに伴うユーザーでの認定作業は順調に進んでいる。認定作業を終えたユーザーからデンカの青海工場品に切り替えをしている状況。上期中に DPE 品在庫を全量出荷予定であり、多くのユーザーに青海工場品へ切り替える準備も整う見通し。

＜ポリマーソリューション＞

Q7：製品の最終用途を考慮すると、今年度 1Q の営業利益（4 億円）が前年度 1Q（3 億円）比で増益となっているのは関税影響による前倒し出荷の可能性も考えられるが、2Q 以降はどのような想定か？

A7：ポリマーソリューションの製品は中国向けの販売もそれなりに多いため、間接的な影響も含め期初予想にマイナス影響を織り込んだが、現時点で関税による大きな影響は出ていない。引き続き動向に注視する。

以上